

洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

陽春雜感

本会会長 松田長三郎

新会員を迎えて

陽春三月、目出度く、京都大学電気系学科を卒業された多数の新学士諸君を、私共の母校同窓会—洛友会—にお迎えすることができたことは、喜びに堪えません。心からお慶び申し上げます。皆さんのお喜び、ご父兄、ご家族の方々のお喜び、ご満悦も、さこそと拝察致します。この機会に感謝感恩の誠意を籠めて、精進努力の決意を堅めて頂きたいものです。これからは生活環境もすっきり変ることもありますから、健康には、呉々も注意されて、社会人としての第一歩を、力強く履み出して頂きたい。国内・国際情勢は、今後愈々酷しくなつて来ますようから文化殊に電気学術・技術の重要な一翼を荷う荷い手として、夫々の分野で活躍されんことを囑望する次第です。

皆さんは、小学校以来、少くとも16年間人も羨やむエリート・コースを歩んで来られました。しかも、日本人の心のふる里とも言われる古都・京都に三年間を、多感な青年時代を過ごされ、しかも時代の尖端を行く電気に関する学術を、生涯の伴侶、生き甲斐として、選ばれ、愈々これから実社会に、ふみ出された訳でありますから、母校電気工学科卒業の六千名の先輩に伍して、斯界の向上発展に寄与されむことをお祈りする次第です。皆さんの頭上には、京大電気卒業のレッテルが貼られている訳で、このレッテルは、終生消ゆることなく光り輝く訳でありますから、大いに自重され、自信をもって、しかも謙虚に御活躍されることを重ねてお願いする次第です。

よく言われることですが、人には運がある。運の善い人、よくない人。いくら努力しても酬われぬように見える人、又所謂「ついで」時期がある。何でも良い方向に向いていて、することなすこと、少しも裏目に出ないような幸運の人があるものである。又同じ卒業生の方でもスタートは同じでも、所謂、世俗的な栄進に恵まれない人もある。こう言う人も、人間として実に立派な人達も多い。

社会へ出れば官庁・会社・学校等所謂、栄進のコースと考えられている、課・部・局等の段階はあるが定員がある以上如何に優秀な適材であっても、空席が無ければその地位は得られぬ。大学でも同様であつて教授・助教授・助手等の定員は、はっきりしているから、教授の定年退職までは如何に有能な適材があつても、教授にはなれぬ。これは全く運と言うより外は無い。会社・官庁でも同様である。大会社の社長などは、どうせ、高嶺の花とあきらめても、今や部・課長さえも、思うに任せぬ場合も多く出て来ている。一時は不遇に見えるようであつても、コツコツと、その職分に精励しておれば、万人の眼は正確であるし、たとえ認められなくとも、自分自身、人事を尽した満足感で悔しいは無いであらう。世の中は、むしろこう言う人達によって支えられ、運営されているようにも見える。初めから諦めてかかる必要は

無いが、一生懸命に、蔭日なたなく努力しておれば必ず認められるにちがいない。あせらずさわがず、待てば海路の日和と、あつてほしい。

私は歌人と謝野晶子さんの歌、「劫初よりつくり営む殿堂に、われもこがねの釘一つ打つ」の歌が好きです。敢て私なりの解釈をしますと、開闢以来、人類は宮々として文化の殿堂を築き上げて来た。自分も人類の一員として、及ばずながら、その一翼を荷つて文化進展のためにがしかの貢献をしたい。しかも鉄の釘では無く、黄金の釘を打ちたいと言う、熱烈な願望・自負と誇りを以て歌い上げたものと思ひます。この歌を皆さんの歓迎の言葉に替えさせていただきます。(与謝野晶子さんは東大電気教室の有名な故鳳秀太郎先生の令妹であり、鳳誠三郎同名譽教授の叔母様に当る)

アインシュタイン生誕百年

今年、アインシュタイン(一八七九—一九五五)の生誕百年に当るので、世界の各地で、いろいろの記念行事が行われる。ニュートンとともに、何世紀に一人出るか、どうかと言われる程の大学者ではあるが、ユダヤ人であるために、ヒトラーのユダヤ人追放にあつて、一九三三年ベルリン大学を

逐われて、米国のプリンストン高等物理学研究所教授に迎えられ、そこで一九五五年に七六年の波瀾の多い生涯を閉じたのであるが、一九〇五年発表の特殊相対性原理、一九一五年の一般相対性原理によつて、時間と空間との相対性や、その帰結であるエネルギーと質量の同等性(E=mc²)を創説し、これが基で、やがては原子爆弾・原子力発電など、軍事上・産業上の大きな革命的事績をもたらすようになった。一九〇五年には光電効果やブラウン運動に関する研究をも発表しているが、一九二一年ノーベル物理学賞を受けた時の授賞の対象は、相対理論では無く、光電効果に就てであつたことは、本人は定めし不満足であつたにちがいない。と言うのは一九一九年、アフリカでの英国の皆既日蝕観測隊が、太陽の周辺を通る星からの光線がアインシュタインの計算通り二千分の一度の偏移を観測したが、この観測結果が相対論を確証しているのである。尤も当時は、ドイツの学界でも相対論を支持しない有名な学者も何人かあつた。新理論に対するいばらの道とも言うべきか。

大東亞戦争において、アインシュタインが一九三九年に原子爆弾製造をルーズベルト大統領に勧告した手紙を送つたことは有名なこ

とであるが、後年この手紙に署名したことを大変悔んだと言うことである。今度生れ変わった左官になりたいとも述懐していたとも言われている。

アインシュタインは、その伝記などでも知られているように、一八七九年ドイツのウルムで生れ、スイスのチューリッヒ連邦工科大学を出て、同国の特許局に奉職中、一九〇五年この画期的な論文を書いたのであるが、同時に、一九〇〇年発表されたプランクの量子論を使用して光電効果を説明した。凡そアインシュタインのような不世出の天才的英知も、これを認めるものが無ければ、この千里の名馬も世に頭わねなかつたかも知れない。ベルリン大学のプランクなどは、アインシュタインの推輓に大きな役割を果された。筆者が一九三〇年、初めて伯林に行った時、自分の専門が電気工学であるに係らず物理学に非常に興味を持っていたものであるから、先ず第一にベルリン大学の物理学教室にプリングスハイム教授(蛍光現象の大家)を訪ね、同教授の紹介で幸にもプランク、フォン・ラウエ、ネルンスト、アインシュタイン、シュレーディンガーなど、鏘々たる大家にお目にかかれたことは、大きな幸福であった。当時この物理教室は理論物理学における

世界の中心地であった。我が国にはアインシュタインは昭和二年、当時昇天の勢であった改造社の招きで来日、全国的に大歓迎を受けた。東京・京都など各大学で講演会が開かれたが、私も判らぬながら、その風ぼうに接した。我国ではこの理論が判る人は三人とあるまいとも言われたが、逸早く研究されたのは、東北大学の石原純先生で、通訳の労も執られた。その後、先生は例の歌人原阿佐緒さんとの恋愛問題で東北大学を退官され岩波書店におられたが、あれは何年であったか、信州の木崎湖畔の信州夏季大学で、先生と一週間許り起居を共にして講義したことがあるが、いろいろとお話しを伺ったことがある。

造の簡単な講堂で拝聴するために案内されたが、靴を脱いで中に這入ったが、出て来た時には乱雑に脱ぎすてられていたみんなの靴が、きれいに揃えて並べられていたのには敬服もし、羨けの無かつたことに、非常に恥かしく思つたことが、未だに印象に残っている。

見学会・夏期実習の性い出
今はどうなっているか知らないが、私共の学生時代(大正三年一月・六月)には、毎年初夏の候(五月・六月)に、3日間(2日間)3回生は先生方に引率されて、京阪神地方の見学旅行に行った。神戸では、三菱電機・神戸製作所は、いつも見学させてもらった。私の助教時代、松下電機産業がホンの町工場から少しばかり、大きくなられた時分に見学させて貰つた時、松下さんのお話しを、木

又当時は、三回生には暑中休暇の2ヶ月間(7月11日から9月10日まで)学外実習が正課として課せられていた。大正2年、私は東京電燈株式会社(現在の東京電力)を選んだ。先生から常務取締役の中村岩三郎博士への紹介状を貰つてお宅にご挨拶に行ったが、一介の書生を親しく引見して下さい、実習中の心得など、注意して頂いたことを感謝しているが、同様にK電気課長さん宅へお伺した。玄関に出て来られた女中さんから「若様にですか」と問われた。多分ご令息の友人とも思われたのでしよう。「いやご主人様」と言うと、奥へはいつて出て来られて「会社のことでしたら、会社でお目にかかりますとのことです」と言われて、スゴスゴ引き下がったことを、今でも覚えていたが、こういう際には、できるだけ親切にしてあげてほしい。勿論、その節は、いろいろと御事情はあつたであろうし、お忙しいご

身分で、一一実習生に私宅で面会するなど、なかなか大変だとは思ふが、思いやりや親切心が欲しいと思う。

尚この際の東上の際車中で隣席の人に、東京の旅館のことを聞いたら、良い旅館を教えてくださいなうとのことで、品川駅附近の品川館を教えてくださいました。ここは親切な行き届いた旅館で通されたのが次の間付きの部屋、朝から、二の膳つきのご馳走、食事には女中さんが附ききりで給仕される。ポット出のウブな学生には、なんとも面映ゆい、寧ろ窮屈で迷惑さえあつた。お湯に入ると、三助さんが背中を流してくれる。出入りには番頭さんか女中さんが恭々しく送迎してくれる。一体こんなことでどれだけ勘定がついてくるかと内心ビクビクしていたが、さて勘定書が来て安心した。ナント一泊一円八十銭!! どうしてこんなに安いのかと聞くと、何れ、ご卒業になつたら、ごひいきにして頂きたいとのことであつた。その後、星移り時変つて、この旅館がナント、当時天下を驚かせたかの有名なお定事件の現場にならうとは、誠に今昔の感に堪えなかつた。(此事件は、お定さんが彼女が熱愛した愛人の男性シンボルをチョン切つて、大切に保存していた事件)

この夏期実習では、東京電燈の八ツ沢、駒橋の両水力発電所で一ヶ月の実習を終え、帰京後は京都岡崎慶流橋畔の奥村電気商会で、後の一ヶ月の実習をさせてもらった。この会社は当時変圧器や誘導電動機などではOA (Okamura Electric Works) のマークがいたものが、日本国中に普及していた。業績隆々たるものがあつて、洛西吉祥院にぼう大な敷地(現在の日本電池の工場)に移転したが残念ながらその後つぶれて了つたのは、幾重にも残念なことであつた。

八ツ沢発電所からの帰京の途中、中央線で乗り合せた隣席の人が富士登山をすると言うので、急に思い立つて一緒に登山することにして吉田口で下車、同夜はそこで一泊、翌朝早く強力を共同で雇つて信玄袋の旅装を托した。頂上を極めて、さて帰る段になって私は御殿場におりるのに、その人と強力は吉田へ引き返すと言うので困つたが仕方が無い。重い信玄袋をかきついで、須走りを降つたが、その壮快さは今も尚脳裏に鮮明であるが、あの大量の砂、一人がおりのでも大変な量の砂がずり落ちるが、あれから60幾年、今はどうなっているであろうか。下山して由比で泊つたが、海岸で漁師さんから貰つた一匹のアジを宿

師さんから貰つた一匹のアジを宿

で塩焼きにしてもらったその味は、今も尚なつかしい思い出である。

中国留学生

中国は今、四つの近代化を目ざして科学の振興に熱心である。その一環として五十四年度中に四二五名の研究者を日本に送りたい希望のようであるが、その先陣として、まず男女2人(二八歳と四〇歳)の研究者が京都大学に情報工学研究のために入洛、坂井利之教授の研究室で指導を受けておられる。現在は我国でも夫々の分野で世界の尖端を行く研究が随所で行われていて、来遊の外客も多くなって来ているが、私の在外時代は、我国の学術・技術は、今と比較すると随分遅れていた。当時、学術の研究には大抵はドイツか英国、芸術はフランス、工業は米國が普通であったが、終戦後は、学術・技術の中心は米國に移っていったような感じで、今では我国では医学でも、ドイツ医学から米國医学に移りつつあり、カルテなども米式と言われている。学界の推移を見ていると、今昔の感に堪えないものがある。

は日本語の障害が非常に大きい。私共は自分自身がそれとは意識していない間に、世界も羨やむ経済大国のし上っていた。学術文化の面でも今やそういう気運に向っているやに見える。ただ、いつも

クイズ小ばなし三題

大正十五年卒 日本建鉄働相談役 石川辰雄

第一話

これは昭和二年米國に遊学中、同級生の昼休みの談笑の中で聞かされた話です。

ロシアかどこか北歐の寒村に、婚約者の若い男女がいました。追い追ひ結婚式の日が迫ってきた或る日、二人は相談しました。というのはこの村では教会で結婚式のさい、牧師が新婦にキスするという風習があったのです。若者は自分の花嫁があんなうす汚れた老牧師に目の前でキスされるなんて、たまらないと思いました。そこで許嫁の娘さんに、牧師さんのところへ行って、何とかキスは勘弁してもらえないかと、交渉してくるよう頼みました。娘は気軽に承諾してすぐ出かけて行ったが、間もなくニコニコしながら「うまくいったわよ」といって帰ってきました。男は「そうか、キスされないですむのか」と大げさな表情で満

痛感する所であるが、国際交流の場で、外国語が不十分であることは非常なハンディキャップであるから、頭の柔軟な若いうちに、大いに勉強しておいてほしいと思う。

悦をあらわしますと、娘は「まだいいことがあるのよ。結婚式のお礼は半分にまけてあげるよっていわれたわ」と二重の成功を得々と報告しました。

ここで米人の学生達はドツと爆笑したのですが、血のめぐりの悪い私はチンプンカンプンで、ただテレ笑いをしてごまかしました。あとでソツと仲のよい友達に聞いて見たら、「牧師の身になって考えて見ろよ。きつとこんなこぎたない小娘にキスしないですむのなら、おれなんか半分にしたって大助かりだと思ったんじゃないの？」と。

第二話

これは大正十五年に三菱電機の子会社に入社して見習の時代に、工場の物陰に見習が大勢集ってトグロを巻いてサボっていたとき聞かされた話です。

源の弟が頼朝に京を追われて、主従十二人山伏姿で奥州に落ちのびる途中、安宅に設けられた新関にひっかかり、富樫に散々に油をしぼられ、既に一命も危いところを、弁慶の機転で即席の勧進帳が管なまれ、辛くも虎口をのがれて、ホウホウのていで逃げのびました。その逃げていく途中の話です。若い可愛い娘さんが女の赤ん坊を抱いて路傍に立っています。義経は余りの愛くるしさに危急も忘れてその娘さんに「これは貴女のお子さん？」と尋ねましたら、娘は微笑んで「いいえこれは私のおばさんです。そして私はこの子のおばさんです。」と申しました。義経は途端に不機嫌になって「畜生め」といって、先を急ぎました。遠く落ちのびてやっ

と休息していたら、そこへ富樫から酒肴が届けられたので、一同は一杯飲んで人心地がよくなりました。そうしたら弁慶がカラカラと笑い出して、「ああそうだったのか」と先刻の義経と娘のやりとりを、手を打って感心しました。

三菱電機の見習どもは紙に鉛筆で糸図を書いて畜生めをキー・ワードに、ああでもないこうでもないヒネクリ廻しました。そして二つほどの解答が出ました。そのうちの私の出した答えは「娘の

姉に祖父が生ませた子」というものでありました。

第三話

このたび洛友会報編集部の山本茂雄さんから何か書けと手紙を貰ったので、この取って置きの第三話を書きたいばかりに、前の二話をつけ加えたのです。この話は昭和三十年の前後ごろ、京大電氣を出た後輩から、さる会議の席上聞かされたものです。申し訳ないが私は驚愕してその仁のお名前も所属も忘れてしまいました。或いはこの文を読んで下さる洛友会員の中にご当人がいらしたら、思い出して下さい。

この卒業後数年の若いご仁は、フルブライトか会社からか、米國に一、二年留学させて貰って、帰りは安くあげるため貨物船に乗りました。その船中で上品な年をとった米人の女の宣教師と仲よくなり、つれづれのままにクイズを出されました。彼の女はこの問題を何千人かの信者に設問したが、殆んど回答できた者はいなかったというコメントつきでした。そのような難問をわが京大電氣出の好青年は、勿論幾日かはかかったようですが見事正解を出して、ナイ・ス・ボーイ、ワンダフルとはめられたそうです。さて本論にはいりませんが、或る亡者が三途の川を渡って長い長い

黄泉(よみ)の国へと歩いていきましたら、とうとう終点近くまで参りました。そこでは道が二つに分れていて、一つは天国へ、もう一つは地獄への道となっているが、どちらが天国行きかはわかりません。そしてこの分岐点に休憩所があって、若い綺麗な娘さんが一人いるのです。この娘は双生児で全く見分けがつかません。一人は決して嘘をつかない正直一途の子です。そしてもう一人の方は、うそしかいわないアマノジャクなのです。処で当日いた子はそのどちらか、それはわからないのです。ハテこの娘に何と質問したら、芽出たく天国へ行ける答えが得られるでしょうか、というのが

恩師青柳先生の

お手紙に添えて

大正十四年卒
日立建鉄(株)相談役

橋本真吉

母校京都の大学を卒業させて頂いて半世紀と四年がたちました。古い日記を整理してましたら、恩師青柳栄司先生から頂いた御親筆のお手紙を発見しました。敢えて発見という語を使ったのは、今迄忘れていたことへの懺悔の意味を含めた為です。青柳先生の御世話で日立に入れて頂いたので、入

問題です。

私はその洛友会員のハンサム・ボーイから、女宣教師にほめられたという正解を教わって、「ウーお見事」と感嘆したことはハッキリ覚えて居るのです。しかし肝腎の質問の言葉を忘れてしまっ、どうしても思い出せません。かすかな記憶は質問して答えられたら、その反対の途を行くということだったと思います。頭のよい洛友会員のどなたか、または私にこの話をして下さったご本人が、何卒この回答をもう一度私に教えて下さいませんか、うか。

社して御礼を兼ねて挨拶状を出した時の、御返事のお手紙と思います。取り分け、御多忙の先生から一教え子にこの様な御鄭重なお手紙を頂いたことに対して、間もなく喜寿の年さえ終らんとする今の私が、改めて感謝の念を新たに致しました。と言いますので、

有難う御礼後
今日も健康に勤め
日立建鉄(株)相談役
橋本真吉
大正十四年卒
恩師青柳先生
お手紙に添えて
橋本真吉

高尾工場長以下幹部数人の方々と、それぞれのお室で面会は済んだものの、京都へ帰る夜汽車の中で、これは一応どう対処するか青柳先生に御相談する他ないと考えました。朝、京都に帰ってその足で先生のお室へ伺うと、私の片足がお室の中へ入るか入らぬ内に先生が私の姿に気付かれて、橋本君お目出度う日立から入社のご報告が来たよと機先を制せられ、入社を断るか否かの私の迷いの出鼻を挫かれて、私の言葉はお礼の一語に急変してしまいました。爾来今日迄先生の御裁断に感謝しつつ今日に至ってしまつたという次第です。或いは先生がこの事を耳にされなくとも第六感で察知されていて、激励のお手紙を下されたのかも分りません。

この様な私信は私だけにそっとしておくべきかとも思いましたが、時の流れが深まってゆくにつれ先生に対する已むに已まれぬ感謝の気持ちで、皆様の御諒承を得られれば、洛友会会報に出させて頂いてもと思いました。先生の御遺徳を共に偲んで頂ければ幸いです。

大正十四年卒
日立建鉄(株)相談役
橋本真吉
恩師青柳先生
お手紙に添えて
橋本真吉

京都市丸九通一橋上。
青柳榮司

木津圭蔵君を悼む

大正十四年卒
日本原子力発電機相談役
一本松 珠 璣

木津君は私にとって最も身近な親友であった。お互に何の気兼ねもなく附合っていた。それは木津君の人柄からであった。苦勞した人である。それであって一寸もその様に見えない。全く自然に体得したのであろう。

木津君は四高柔道部の選手であった。当時高等学校の柔道は盛んで、四高、六高が最強であった。選手の練習は猛烈を極めたもので運動部の選手が終生変らぬ友情を持ち続けているのはこの間の修業を通じて、身体と精神とに沁みついたものである。その努力が広く人格形成に役立ったのである。

私が木津君を知ったのは大正一年、京大電気工学部に入学してからであった。クラスのことには木津君、平井君、私が相談してやったが、これは卒業後も長く続いた。

大正一四年卒業するとすぐ二人共大阪市電気局に入った。木津君は電灯部で営業畑から經理畑へと幅広い分野で働き、私は純技術で専ら変電所の建設に従事していた。当時は大学出は優遇せられる

時代であったが、二年後輩の内田君と三人は特に親しく、よく一緒に遊んだものである。

大阪市電時代の木津君は最も発刺とした時代であったと思う。電灯部で営業課長、技術課長に可愛がられ、電灯部長からも非常に信頼されていた。君の融通無碍な性格から来ていると思うが、他の課長からも好意を持たれ係長にも早く他の部に抜擢された。

満洲事変後の日本は軍備を中心にした経済発展時代に入り、電力界も好調であった。

木津君の奥さんは大阪陶業の社長香月鏡之助氏の愛嬢で、当時社業も好調で大阪財界でも令名があった。社長も年をとっていられた後事を木津君に托したかったのである。日支事変に発展した頃、木津君は大阪市電を退き大阪陶業の専務となった。

それからの木津君は大阪財界の若いホープとして幅広く活躍せられたのであったが、日本の戦事体制は進み、遂に軍の要請で朝鮮に作られた特殊会社の計画に参画し、その責任者として現地に赴くことになった。君はこの完成に努力せら

れたが、日本の国力は既に限界に達して、計画は思うように入らず、遂に終戦となり、君は文字通り命からがら帰国せられたのであった。

そして、その時の色々の苦勞が原因だったと思われるが、不幸病魔に取つかれた。終戦後の悪条件で重き病と闘う最悪の事態から、持前の粘りによって恢復せられたのであるが再び君の志を伸ぶるに至らなかつたことは、誠に残念である。

交友の面で君は独特の人情味があつて、常に衆望の中心であつた。電気教室卒業後すぐ、大正一四年卒業に因み、十四日会を作り毎月仲間が一日に集り昼食を共にしていた。

年を経て十四日会は大正一五年組と合流し殆んど二十年に近く旅行会をするようになった。夫妻同伴、二泊三日の旅行である。このため十四日会は家族ぐるみの親しい集りになっている。この会の世話を一番よくしてくれたのが木津君であつた。

この旅行会に一度も欠席したところのない元氣な木津君が、昨年七月友人のすすめで入院したとの報に驚き、私もすぐ君を見舞つたが思いの外元氣であつたので必ず恢復すると思つた。其後小康を得て自宅に帰られたこともあつたが、

木津圭蔵君追悼 十首

大正十五年卒
日立電線顧問
小 宮 義 和

関電病院

去年きぞの秋君を見舞ひて来む秋にまた旅せむと語り合ひしを

大牧温泉

日は暮れてダム湖の舟路途絶えたる大牧の湯に語り明しぬ

妻刈枕潮閣

轟たきて激うしぎつ潮しに惹かれつつ活洲いけすの海老を飽かず食ひたり

手 術

胸の手術明日は受けむと言ひし君と別れし夜半に台風来たる

黒部ダム建設予定地

紅葉する仙人谷に風とよみ見上ざる嶺に雪は積れり

平安神宮

静かなる閑たけゆく春の夕暮にけふを限りの紅枝垂べにしにれめ愛づ

熱 海

海見ゆる芝生に妻連れ並びたる四人よたりの友の二人今亡し

長命寺

観世音菩薩尊し願終へて食べし江州牛の味は忘れず

十四日会

妻連れて旅する慣ひいつしかに君の音頭に十七回を経つ

永 眠

病篤く小春日和の七日経てはだら雪降るけふ君は逝く

(五四年一月)

昨年末再び入院せられ、遂に本年一月一三日忽然として不帰の客となられた。

人間とはこんなに思いがけなく無くなるものか、今更ながら感慨

楠本さんを偲んで

大正十四年卒
日立建鉄機噺相談役 橋本真吉

三高から京大それから日立に至るまで、楠本さんは私の七年古い大先輩であり人生の師でありましたので、去る一月二十六日の御永眠に際し、感謝の気持ちをこめて私なりの在りし日の思い出を綴らせて頂き、洛友会の皆さんと共に御冥福をお祈りしたいと思ひます。

私は大正十四年日立製作所日立工場に入社以来、今日迄数々のお世話になりました。まだ日立町や助川町と言っておりました時代で独身寮の平沢合宿所に起居していた私は、程近い平沢役宅のお住居にお邪魔しては御馳走になったり、工場生活の心構え等お諭し頂きました。家を持った時は、奥さんに西も東も分らぬ家内をお引廻し頂いたり、又ご郷里徳島から送られた香り高い新鮮な鳴戸若布を頂戴したことも、昨日のこの様に思い出されます。

無量である。
木津君は人生を達観した人であった、と私は思う。安らかにお眠り下さい。

(一九七九年一月)

工場長の下は係(現在の課相当)で、楠本さんは即に変圧器係長に榮進して居られました。私は入社して研究係に配属され、僅か三ヶ月たったばかりで私に所属変更の話が起きた時、設計室で執務中の楠本さんから、単に私の先輩という立場で、上からの話には従う他ないんだよと言葉少なにお諭し下さいました。春秋の筆法を以つてすれば、この御一言が後の私の日立ライフに大きな転機を与えられる結果となりました。

曾て楠本さんの御学友阿部清先生が上京されると、楠本さんと御一緒に御懇談の機に恵まれましたが、楠本君は学生時代はおとなしかったんだよと聞かされて居りました。事実楠本さんは大人の風格を備えて居られました。内心は温情豊かにお心遣いの行き届いた方でした。私が入社して最初の研究の仕事は重電機器全般の鉄損と高圧絶縁に関するものでした。こ

れに必要な設計・試験の資料をこの係よりも一番早く手渡された事を、今も有難い事と感謝しています。御家庭でも奥さんのお帰りが遅いと時折門迄出てお待ちになられたり、お孫さんが一寸怪我でもされると、一番大騒ぎされるのがおぢいさんの楠本さんだったそうです。

しかし一旦事会社のこと公のこととなると、一寸でも曲つた事がお嫌いで、自らを持すること厳に積極果敢な進歩的実行型の経営者でした。楠本さんは中年時代から日立の小型電気機器量産の開拓指導者の重責を負われ、多賀工場副工場長、戸塚工場長を歴任され、日立今日の量産の基礎を確立されました。

戦後、日立の監査役を経てパブコック日立の初代社長をお引き受けになつてからも、公私の別を自ら明らかにし誠心誠意会社発展の経営手腕を発揮され、提携先イギリスパブコックの最高幹部から、人種、空間を越えて絶対の信頼を寄せられました。その為楠本さん御夫妻は英本国から社賓としてお招きを受け、その功を犒われました。至誠天に通ずとは正にこのことかと思ひます。

楠本さんが第一線を退かれた後、時たま会社のお室へ伺うと、青年の如く楽しそうに高等数学を

解いて居られました。この辺に、楠本さんの裸のままのお人柄の一端を垣間見た思ひでした。

楠本さんは奥さんの豊かな内助の功と共に四人のお子さんが揃って立派な御家庭を営まれ、お孫さん十人、ひ孫さん五人の御繁榮振りであります。後に残られた奥さん

知識兼則君の逝去を悼む

大正15年卒
神鋼電機機噺 田中卓次

知識君が昭和五十三年十月三十一日に逝去された。当年満七十五歳。今は只謹んで御冥福を祈るのみである。

君は生地鹿兒島県の川内中学より七高を経て京都大学電気工学科に入り、大正十五年三月卒業され名古屋鉄道の前身愛知鉄道に就職された。

在職中は車両部長として、又電氣部長として鉄道事業の発展に多大の功績を残されている。

名鉄を定年退職後は共栄社、及び名鉄観光等、名鉄系数社にそれぞれ経営の最高責任者として就任し良好な業績を残し、名鉄自動車整備株式会社を最後に後進に道を開かれている。

名鉄関係会社を引退後は、乞われて数社の顧問や電氣主任技術者を引請けられていたようである。

人も御健康であり、平素の御家風からもお子さんは揃つて孝養を尽されることでしょう。

大勢の御家族に見守られ、何不足なく八十五歳の天寿を全うされた大往生の楠本さん、どうぞ安らかにお眠り下さい。楠本さん、どうも有難うございました。

御子様は二人の令嬢で長女の御主人は日本碓子に勤務の部長さんで、知識家と同一敷地内の別棟に住居されている。二女は未婚の由であるが近くに別居して独立生計を営まれているので、澄子夫人と共に娘、孫に囲まれ幸福な家庭生活を遇されていたのであった。

私とは京大入學以来の友人関係で、勤務地が中部の名古屋と呉羽であるので時々名古屋に出向き友情を温めていた。

特に思い出すのは終戦直後の不況時代の君の車両部長時代に、私の会社で仕込み製造した路面電車用直流電動機を即時に岐阜市電用として多量に採用して頂いた事で、君の友情に只々感激したものであった。

昭和五十二年十月に行つた高山にての十四日会には私と共に幹事

を引請け、当日は御夫婦にて参加し何かと氣を使って頂いた。

本旅行の世話係を依頼した名鉄観光の責任者の方や、グリーンホテルの支配人は、好運にも以前に君の部下の人々であった為か誠意尽して頂き有難く思ったのであった。

本会合の計画に当り私は屢々名古屋に出向き打合せを行ったが、君は胃の調子が悪いとて病院に通われていた。今にして思うと其の時期より少々疲れておられたよう

随 想

昭和14年卒
京都大学教授 田中哲郎

最近親戚や知人に相ついで起る幸・不幸を見るにつけ、人の運命というものについて考える機会が多くなった。規則正しい生活をし、極度に節制を重んじていても寿命の短い人もあるし、不節制をしていながら長生きする人もある。人の寿命も結局は運命だと片付けてしまうことは、自分の不節制の言い訳には都合がよいが、運命もある程度は自分で切り開いて行けるものでもあるようだ。人は年をとるほど身体に氣をつけて、大事にしなければならぬことは当然であって、世間一般の常識といえよう。ただし、大事にすると

である。

君は高山より帰宅後間もなく発病され、名古屋ガンセンターに入院された事を聞き驚くと共に、本年度の幹事を依頼した事が病状の悪化を早めたことと思われ今になって悔んでいる。

其後病状は一進一退を繰り返して遂に御家族の手厚い看護も空しく永眠されたのは誠に残念なことである。ここに重ねて君の御冥福を祈り、御家族の御多幸をお祈りする。 合掌。

はいたわることではなくて、よく使うことだというところ、これは一般常識から多少ずれてくることになる。身体の筋肉でも頭脳でも、使えば使うほど発達するし、全く使わなければ、驚くほどすみやかに退化する。そしてこれはそれほど年齢に関係のないことだと思ふ。かなりお年を召したある会社の社長さんから、こんな話を聞いたことがある。「私は週に一回ぐらいはかなりの深酒(ビール)をやる。すると翌日は必ずといってよほど下痢をするが、これは内臓を掃除してくれていると思つて気にしていないし、決してこの習慣

を止めようとは思わない」と。理屈にかなっているかどうかは分らないが、私には興味がある。私も同じような考え方をしているからである。私は肉体や頭脳には時々オーバーロードあるいはショックを与えた方が、若さと健康を保つのにかえよいのではないかと思つている。

数年前にこんな経験をした。上高地から横尾沢を登って濁沢から北穂高岳に登り、濁沢岳、奥穂高、前穂高を縦走して岳沢を下るプランを立て、横尾の小屋で昼食をとり、さていよいよこれから登りだとかザックをかつごうとしたとき、ギックリ腰が起つた。重いザックをかついでの穂高縦走なので、このとき引き返すのが常識であるが、初めてのルートでもない

ので、どこまで堪えられるか試してみようという気になり、無理して登って行った。かなりきつい山行きではあったが、ともかく予定どおりのプランで縦走を果たし、無事帰ることが出来た。それ以来ギックリ腰がこわくなり、ギックリ腰の方がむしろ私を敬遠しているような気がする。そして年毎により困難なルートを計画するようになった。人生には時折真剣に考えねばならない多くのことが、一時にやってくることもある。短時間にこれ

自然と観光

昭和十年卒
四国電気保安協会理事 藤本悟郎

だけのことはとても処理しきれないと、投げ出したくなることもある。しかし問題を整理して、順序よくひとつひとつに対処してゆけば、自分でも驚くほどのことが短時間に来ることがわかる。そして何とか解決しようと張りつめた瞬間に人生の生き甲斐を感じ、うまく切り抜けられたときは、より困難な問題にも立ち向う勇氣も出た。

てくるというもので、このような緊張感がやはり若さと健康の保持にもつながるものと信じている。本当におしつぶされるような難問が一身に振りかかってくるようなことは、滅多に起らないのではなからうか。そしてかりに難問にぶつかっても、対決する勇氣さえあれば、運命も変わってくるのではなからうか。

十一月の初旬、全国連絡会議を南国高知で開催し、地元協会として、一切のお世話を引受け無事終了した。

参加者の殆んどが高知方面は初顔なので、会議後、黒潮おどる南国情緒を味わって貰うため足摺岬をご案内することとした。

時節柄、幾分寒さを感じるとはいえ絶好の天気にも恵まれ、十分その目的を達成することができた。

高知は、明治維新の英雄坂本竜馬、中岡慎太郎等多数の人材を生み出した土地であるが、南を太平洋に、東北部は急峻な山々に囲まれ、西に行くにつれて山は幾分狭くはなるが依然として山また山で、四国においては孤立的な地方である。

従来は、一本の鉄道と船にたよっていたが、時代と共に道路の整備が急速に進み、東に西に自由に車の楽しい旅ができるようになった。

足摺への道もご多分にもれず立派なものである。山腹をぬって走る関係でカーブが多く、上り下りの変化に富んだ道である。

須崎を過ぎると出入りの多い美しい海岸に沿って走る。

そここに山肌をひどく切りとってドライインを作っている。成程、海岸線の眺めはずばらしいが、赤肌の出た山の景色はどうもなじめない。

観光とはこんなものかと、自然と造造物との調和をもって真剣に

考えて欲しいものだ。

中村を過ぎて、水車小屋というところの田舎めいたレストハウスで昼食をとる。

ここは山の中の一軒家で大きな水車が台榭かな水で回るようにうまく設計されていて、田舎の味を十分楽しめる。

また、付近で採れる各種の樹木の盆栽仕立を沢山並べて旅人の心を慰めてくれる。

自然にさからわず、最少限の整地と切りとりですませているのは、設計者の心に、配慮の賜か。

どちらかと言えばこのようなハウスは近代的な様式をとり入れ、周囲の景色との調和を全然考えずただ便利に広々と作られがちで、そのところどころの風物にとけ込んだものは殆んどない。

見方によれば豪華だが、反面その全体の風景を害することはおびただしい。

周囲の風景にとけ込んだ、全体の調和をこわさないような構造こそ大切ではないだろうか。

昨年五月、信州路へ旅し、白樺林の蓼科高原をバスの窓から眺めつつ、高原のホテルに一泊した。

このホテルは、千数百米の山の斜面と谷間を利用して作られた八階建の立派な建物で、こんな山の奥によくこんなものができたも

のと感心させられた。

目的は観光客用である。

仙人の住むような山奥へやって来て、大都会の真ん中にいるも同様な生活様式を必要とすること自体どうもおかしい。

山奥には山奥の生活があり、人生最低の生活が保障されればそれでよいと思う。

こんな考えに徹することが出来ない人が多いから山奥に都会式のホテルが出現し、周囲の山をけずり、大木は切られ、道路は舗装され、野の花一本も見られないわびしい姿、片側は切りとられた土の捨場となり、遙か下の谷深くまで赤土が露出し、降雨のため幾条もの細い溝ができています。

建物は、都会と全く同様な構造で、白色の直線のみを利用したマッチ箱式のもの、周囲の風物との調和等は何等考慮されず、自分は自分、周囲は昔のままで、これを包みこむことをこぼんでいるかのごとく、全くの不自然さを感じる。

客の生活は、都会式の延長で十分満されるだろうが自然は台なしであり、声を出して泣いている。山の奥へ来てまで、何故こんな生活様式を要求するのだろうか、長い期間でないのだから自然の中にとけ込んで、何事も忘れ去り自然と共に過すと言う気持ちになれ

ないのだろうか。

皆んなが、こんな気持ちになれば、こんな巨大な設備を山奥に作る必要もなくなり、自然も荒されず、山の動物達も生活がおびやかされるようなこともなくなる。

バスは水車小屋を出て一路足摺に向って走る。

清水の町を過ぎると、道は旧道と別れて延長約12kmのスカイラインへと入って行く。

ここは半島の尾根を利用して作られた縦走路で、海拔四五百米あり、車窓からの眺めはすばらしく、太平洋の黒潮は断崖に激突して白波をあげ、奇岩怪礁数を知らず、みごとに自然美を現出している。

二車線の緩いカーブの多い道に登って行くと景色は頂上付近で最高となる。

ここは亜熱帯植物の豊庫で、世界的に有名な郷土の生んだ牧野博士が名付けた植物が多数あり、他では見られない珍種がある。

こんな中をブルドーザーが走って土をけずり、スカイラインが出来あがった。

観光用の道を作ることには結構だが、自然保護はより以上に大切なことである。

けずり取った土の捨て場、赤茶けた両側の山肌の手入れ、排水溝の処理等一つとして捨ておけるも

はない。

また、マイカー乗り入れのため排気ガスによる樹木の被害、便利にはなるが犠牲になるものが余りにも多い。

昔は、旧道を海岸に沿って、徒歩あるいは自転車やオートマとやって来ていたものが今では十数分で到着でき、且世にも美しいこの雄大な景色を胸一杯眺められる。世の中も大きく変わったものである。

岬に近づくにつれて、自然の荒れはひどく、少々の植樹ではとても追っかない。

可成りの年月を経てやっと緑に復することだろう。

しかし、樹が樹木らしくなるには、どうしても十年位かかるのでその間赤茶けたみにくい山の姿をかくすことはできない。一度自然を破壊すると旧に復するには大変な時間が必要でえる。

三年前スイスを訪れたが、ここは美しい国である。いたるところが山と湖にみたまされている。近く

の山々の後には雪を頂くアルプスの峰々が白く輝き、山あいの青くすんだ湖の畔には細く尖った尖塔のある教会や、くずれかかった古城が各所に眺められる。

人の住む家や街はそれを囲む周囲の自然と一体になって見事な調和をかもし出している。これらも

皆そこに住む人々の細かい心使いによって残されているのである。

道を利用する人、管理する人々の心使いによっては、如何ようにでも変って行くだろう。

どうか自然と共に歩み、自然の中に溶け込んで何時までも美しくあるよう願ってやまない。

岬の入口近くには、高層ホテルが数軒、民宿がずらりと細い道を挟んで作られ、昔の田舎びた部落のたたずまいはすっかり失われて

いる。

狭い海辺の土地故、十分なゆとりはなく、駐車にも事欠く有様で、自然との調和等は殆んど配慮されていない。

美しい自然あり、歴史的旧跡あり、意義あるみ物があつてこそ人は集まって来る。人が集まってくれば宿泊設備が必要となる。

足摺は宿泊設備は充足されたが、道路の改良が急速に行なわれ、所要時間がぐっと短縮されたため、現在は当初の予想に反し宿泊客は少なく、苦しい経営をつづけている由である。

バスを降りて展望台に登って行く。遠く丸味をおびた太平洋の水

平線を前方に、右に白波狂う八十米の断崖上にそびえる白亜の灯台、過去、現在多くの船人に親しまれてきたこの灯台は又足摺のシンボルでもある。

黒潮の流れが始めて日本列島に突き当たる所、そこがこの足摺岬である。

海の色は青く、空は紺碧、そそり立つ数十米の断崖を噛む黒潮の飛沫、海の波浪と絶壁、台地をおおう椿の密林、足摺岬の豪壮な眺望と緑の自然美を心ゆくまで満喫することが出来る。

椿林の中に入って行く。細い道の両側に数知れない椿が密生し、空を覆いあたかも椿林のトンネルを通っている様で、強い潮風にもめげず長年月成長を続け二月にもなると可愛い赤い花をつけ、小鳥の楽しい遊び場となる。

この自然林の保護には、十分心を配り厳しく取締っていると思われる。

弘法大師の開設されたという三十八番札所として有名な金剛福寺にお参りする。

古い大きな寺で周囲の自然林とよく調和がとれ、無理からずどっしりと落着いている。

また、ここには四国八十八ヶ所の各々のお寺の名を刻んだ地蔵様が安置されており、僅か一時間位で全部のお寺へお参りできるような仕組みになっているのも興味深く感じた。

夕暮れ迫る岬に限りない名残りをおしみつつ、別れを告げて本日の宿泊所へ辿り着く。

ホテルは海岸に近く、すぐ下はよき釣場となり、眺めはすばらしい四階建の近代式建物である。

西の海に沈み行く赤い夕日の美しさ、東天より昇る朝日の壮麗さ、到底筆舌にはつきし難い。

多くの人々は、こんな変わり行く自然の姿を眺めてどんな心境になったのだろうか。

足摺岬とはこんな所である。大自然と人生とは切っても切れない深いつながりがある。

また、観光とは、自然破壊の代名詞であってはならぬ。自然は、一度荒されれば短期間には旧にかえらず、中には永久に帰って来ないものさえある。

スイスのように、周囲の緑、自然と一体になった大自然のふところの中にとけこんだ工造物こそ最も望ましいものである。

田中哲郎教授の転任

と先生を囲む会のお知らせ

京都大学工学部電子工学教室の半導体工学講座担任の田中哲郎教授は本年四月より国立詫間電波工業高等専門学校に校長として赴任されることとなりました。(連絡先) 卍109-11 香川県三豊郡詫間町香田五五一 国立詫間電波工業高等専門学校

郡詫間町香田五五一 国立詫間電波工業高等専門学校

(電話) 〇八七五八一三一三三四
一 (自宅) 卍109 京都市左京区下鴨夜光町二
(電話) 〇七五一一七八一一一五八〇

この機会に先生を囲む会を企画しています。
日時 六月十六日(土) 夕刻
場所 京大会館
ご関心のある向きは左記にお問い合わせ下さい。

京都大学工学部電子工学教室内 田中先生を囲む会 事務局 松波 弘之 (電話) 〇七五一一七五一一二一一

一 内線 五四〇四または五三三九

昭和53年度電気系教室卒業生の就職・進学状況

電気工学教室主任	西川 禎一 (昭30卒)
電子工学教室	板谷 良平 (昭28卒)
電気工学第二教室主任	木嶋 昭 (昭26卒)
電気系教室主任として卒業生の	

就職等の世話をしましたので、その状況について御報告します。
今年度は産業界の状況の反映として、新卒者の就職は一般的にきびしいものでありましたが、幸い電気関係では企業の採用申込みは積極的で、求人数は前年度を上まわり、卒業生の就職の世話はお蔭

種別	学部	大学院(修士)	就職先
官庁、大学、研究所	6	6	〔神戸市、税関、専売公社、電総研〕、電中研、特許庁
通信、放送	5	6	〔朝日放送、NHK、電々公社、フジテレビ〕
電力、ガス	4	5	〔関西、九州、四国、中部、北陸各電力会社〕
交通、運輸	3	1	近鉄、国鉄、山陽電鉄、阪急
総合メーカー	7	15	東芝、日立、三菱
強電メーカー	6	1	〔大阪変圧器、高岳製作所、日新電機、富士電機、安川電機〕
弱電メーカー	18	13	〔IBM、沖、三洋、新日電、シャープ、ソニー、日電、日本無線、富士通、富士フイルム、制御富士フアナック、松下、松下寿横河〕
電線工業	3	1	〔昭和電線、住友電工、日立電線、藤倉電線〕
製鉄工業		3	神戸製鋼、新日鉄、住友金属
機械、自動車	5	6	川崎重工、島津、東洋工業、トヨタ、日産自、日本電装、フジテック、三菱自
その他	6	1	キャノン、小西六、第二精工舎、日本楽器、日本光学、ムラタ、湯浅電池
進学	65	5	京大、名大
計	128	64	



程度の効果をあげたと思っておりますが、なおご期待にそえない点もありましたことをおわび致します。

学部および修士課程卒業生の就職・進学状況を別表に示します。

本年度は、官公庁、電力会社、交通関係、自動車メーカーに就職した学生が例年とくらべ多い状況でした。

一方、学部卒業生の大学院進学希望者は前年度と同様に多く、狭き門でしたが65名が進学致します。大学院入試に失敗して来年度再度受験するため留年する学生がかなりあり、前年度と同様の傾向が見られます。

博士課程を学修退学する学生は表には含まれておりませんが、就職未定の学生があり、教室として考えるべき問題となっております。

最後に、例年、卒業生の採用につき御高配をいただいております洛友会会員諸兄に厚く御礼申し上げます。また今後とも変らぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

昭和53年度情報工学教室卒業生の就職・進学の状況

京都大学教授
昭和25年卒業
萩原 宏

情報工学教室も創立後九年を経過し、第一期生が博士後期課程を修了する年となりました。

本年度教室主任として卒業予定者の就職の世話を致しましたので、その概要を述べさせていただきます。

本年度の学部卒業予定者は前年度からの留年者で単位修得、卒業見込となった者が非常に多くなり、学生定員40名に対して卒業予定者四五名という異常な状況になり、当初は全員無事希望のところへ就職の世話ができるかと心配致しました。しかし、情報関係の卒業生に対する御要求は非常に多く、約二百社より教室宛直接求人御申込みを頂きました。なかには、一社で修士、学部合せて十名という御要望もございましたが、国立大学の卒業生が一社に余り集中するのは如何なものかと考え、一社に対して、学部、修士共二名以内となるように学生諸君と話し合い、希望をまとめました。この

ような求人状況のため、健康上の理由から就職を断念した者、および再入学を希望する者を除き、卒業予定者全員十一月中旬には別紙の通り就職先が内定した次第であります。

また、第一期生で博士後期課程に進学した者は五名ありましたが、一名は本年一月より中途退学して大学関係に就職し、残り四名のうち二名は大学関係に、一名は会社に就職がきまり、一名は研究生として研究室に残ることになりました。

学部、大学院全体を通してみ

情報工学教室卒業生就職進学状況

種別	就職先	
	学部	修士
官公庁	3	4
計算機製造販売 (含電気メーカー)	14	7
ソフトウェア関係	3	1
製造業一般	5	2
その他	1	3
進学	19	3
計	45	20

て、今年度の卒業予定者は非常に意欲的で積極性があり、社会に出てからは皆様の御要望に沿う活躍をしてくれるものと期待して居ります。

学生の求人、就職につきまして各方面から暖い御援助を頂きましたことにつき深く感謝致しますと共に、今後とも何卒よろしく御願ひ申し上げます。

同窓会記事

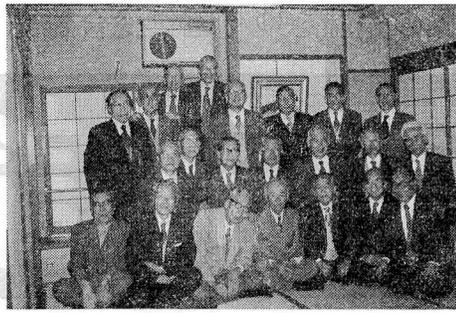
北海道支部報告

前支部長の山上先生の送別会以来、一年半ぶりの12月1日、新装なった北海道電力、北二条クラブにて久しぶりに洛友会の支部総会が開かれた。現在の支部会員は一八名で約半数の八名が参会した。恒例によりまず会計報告があり懇談に入った。初参加の方も自己紹介となった。今回は新旧二名が初めての参加で一人は大先輩の藤谷さんで北海道に渡り、学校で修得した電気探鉱の技術を発揮され、大変苦勞をされた話、戦時下のこと、資源のない我国にとつて、それはそれは大変なこと、皆興味深く拝聴しました。もうひと方は新婚はやほやの天野さんでしばらくは札幌に住みつくそう为数少ないヤング派、たのもしい限りでした。予定時間もだいぶオーバーしてしまいましたので、近い将来に再会することを約して閉会となりました。(土橋記)

らつきょう会

らつきょう会(昭和八年十一月卒、東京在住者の会)で二・八月

の第三木曜日開催）春の会を二月十五日に都内ことぶき亭に於て催す。発足以来満十周年とて盛大にやれという前回の申合せに則り、三味線を加えて綺麗どころ（？）を揃えて提供した。何れも満六十五歳を越した方ばかりであるにも拘らず、流石昔とった杵づかと思わず目を見張る様な隠し芸も発表せられ、終始欲談と拍手の中に、お互の健康を祝し合って交歓を深めた。



尚、発足以来皆出席の西山安三、石川弘文の両氏の健康と本会に対する熱意に謹んで敬意を表する拍手が全員の起立の上に行なわれるという感激の場面もあった。

最後に今回より新しく繰り込まれた三高寮歌、琵琶湖周遊の歌で

旧高校生活を偲び、入校歌、祇園小唄を斉唱して散会した。
出席者（昭八）蒲生朝郷、田中梁之、田中信高、西山安三、丸保一（昭九）石川弘文、市村宗明、河野勝也、重見通雄（昭十）有馬敏彦、井上友一郎、大塚好造、佐野一雄、塩沢弘、高木正、林潔（昭十一）古池弘正、杉本省一、高木一雄、直海登良衛、福光勉、船谷辰男、以上二十二名（古池記）

昭和54年度洛友会総会通知

- 一日時 6月30日（土）
- 二会場 東京目黒八芳園 最寄駅 山の手線目黒
- 三議事 東京支部評議員会 午後二時半～三時半
東京支部総会 午後三時半～四時
本部総会及び講演 午後四時～五時
懇親会 午後五時～六時半
- 四会費 会員 三〇〇〇円 同伴者 一五〇〇円
昭和年度卒業生 無料

会費は別紙総会振替用紙にてお払込下さい。なお、これをもって総会出席通知に代えますので御出席の方は6月20日までに御返事を御願ひ致します。本会には御家族同伴を歓迎しますので多数御誘い合せの上御出席下さい。

洛友会々費納入のお願い

昭和53年度会費未納の方には納入請求の印を押して会報と共に送り致しますので速かに御払込み下さい。
昭和54年度の会費も早い目にお払込み願ひます。
会費は本会存続の鍵ですから納入率向上には各位の御協力を切にお願い申し上げます。

訃報

講大10年	上野弥三郎	53	12	24
大14年	木津 圭蔵	54	1	13
昭35年	井面 善光	45	2	19
昭3年	加藤 兼三	54	1	25

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

○新しい年度を迎え四月の会報を会員各位にお届けします。
副会長の田中哲郎教授が四月より国立詫間電波工業高等専門学校校長として御赴任されることになりました。
先生には色々とお世話話を頂きましたが、四国支部で又御目にかかる機会が多いと存じますので、今後共一層の御指導をお願い申し上げます。
先生を囲む会に就ては本会報に詳細が出て居りますので御承知下さい。
○会員の方々が段々と亡くなられる方が多くなる様に感じるのは年のせいかも知れません。本号では

楠本・木津・知識の三先輩の追悼文をのせ故人を偲びました。御冥福をお祈り申し上げます。
○電気教室の古い方なら誰でも御存知の青柳先生の古い御手紙を橋本真吉氏より送って頂きました。誠に得難い歴史的な資料として皆様に見て頂き度いと存じます。往時の師弟の関係をまざまざと見せて頂き、現代と比べ隔世の感を深くする次第です。
○石川さんのクイズ解答の御本人が現われ、御投稿下さいますことを期待して居ります。



電気工学界の先端をゆく電気総合雑誌

月刊

電気評論

毎月
10日発売

各界の権威を網羅した編集委員会責任編集の下、電力技術を中心にして広く電気技術全般にわたり平易に解説した技術革新時代にふさわしい月刊誌。毎月焦点をしばった新しい技術問題を捕えた特集記事のほか、論文・トピックの解説・講座・海外文献などを掲載しています。

5月号特集・電気と安全

5月10日発売 定価 550円 送料 41円

— 内 容 —

安全な作業や管理とは何か！ 電力システムは最近著しくシステム化し高度の技術を駆使するようになった。これに対しては従来の素朴な「安全」という語はマン・マシンシステムに占める人間という観点から見なおせるべきであり、負傷や傷害についても新しい医学的見地・新治療法の知識なしにはすまない。本号は、これらに基づき、電気事業における事故とは何か、等について考察する。

1. 災害の動向と問題点

- ①最近の感電災害の動向と問題点……労働省安全課
- ②電気事故と災害例……通産省
- ③電気事業における感電事故統計……電気事業連合会

2. 安全作業と管理

- ①安全に関する法規……通産省
- ②ヒューマンエラーと事故
……横済国立大学・日本大学
- ③電気事業における安全教育の進め方……中部電力
- ④安全に対する電気的知識……電気学会

3. 応急処置と治療

- ①電撃傷・電気火傷……東京電力病院
- ②一般労働災害と応急処置……関西電力病院

平月号・臨時号 B5判・本文 80頁・定価 550円・〒41円

1月特大号 B5判・本文 200頁・定価 1,030円・〒53円

ご購読料

半か年前金 (7部)	3,850円 (含臨時号)
半か年前金 (7部)	4,330円 (含特大号)
1か年前金 (13部)	7,630円 (//)

一備考 半年以上お申込みの方には送料は当社が負担いたします。

お申し込みは、最寄の書店、又は直接当方に電話で、お申し込み下さい。

京都市左京区田中大堰町49

株式
会社

電気評論社

電話京都 (075) 701-2582